

大分県長期漁海況予報

〔令和 2(2020)年 1～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕



大分県農林水産研究指導センター水産研究部
879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>

海況経過<2019年 8～12月>

■黒潮

A型流路の大蛇行が持続しました。
また、7月中旬には九州南東沖に小蛇行が形成され、都井岬～足摺岬沖を東進しました。

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は、8～11月は「平年並」、12月は「やや低め」で推移しました(図1)。

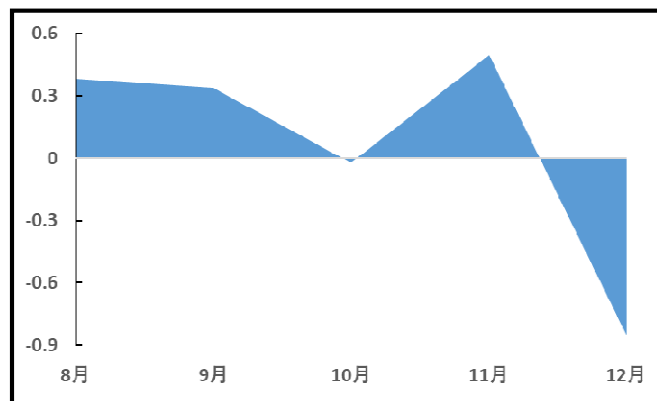


図1 豊後水道における水温の平年値との差(0～75m層の平均値)

■塩分

豊後水道の塩分(0～75m層)は、8～9月は「平年並」、10～11月は「やや高め」、12月は「平並」で推移しました(図2)。

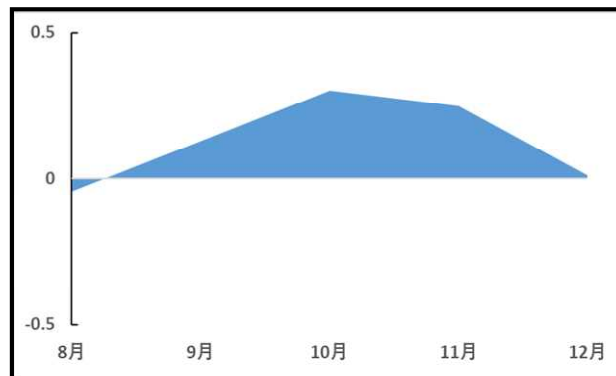


図2 豊後水道における塩分の平年値との差(0～75m層の平均値)

■海域別水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m、75m)は、8月には北部で「やや高め」、中・南部で「平年並」。9月には北・南部で「やや低め」、中部で「低め～やや高め」。10月には北・中部で「平年並」、南部で「やや高め」。11月には全域で「やや高め」。12月には北・中部で「平年並」、南部で「やや低め」。

海域	水深	8月	9月	10月	11月	12月
豊後水道 北部	0m	+	-+	-+	+	+-
	10m	+	-	-+	+	+-
	20m	+	-	-+	+	+-
	30m	+	-	-+	+	+-
	50m	+	-	-+	+	+-
	75m	+	--	-	+	+-
	豊後水道 中部	0m	-+	+++	+-	+
10m		-+	+	+-	+	-+
20m		+-	+-	+-	+	-+
30m		+	-+	+-	+	-+
50m		+	--	+-	+	-+
75m		+-	--	-+	+-	-
豊後水道 南部		0m	-+	++	++	+
	10m	+-	+-	+	+	-
	20m	+-	+-	++	+	-
	30m	+	-	+	+	-
	50m	+	--	+	+-	-
	75m	-+	-	+-	+	-

■海域別塩分

豊後水道の塩分(10m、20m、30m、50m及び75m層)は、8月には、北部・中部で「やや低め」、南部で「やや低め～平年並」。9月には、全域で「平年並」。10月には、北部・中部で「平年並」、南部で「やや高め」。11月には、北部・中部で「やや低め」、南部で「平年並」。12月には、全域で「平年並」。

海域	水深	8月	9月	10月	11月	12月
豊後水道 北部	0m	+-	+-	+-	+-	-+
	10m	-	-+	--	-	-+
	20m	-	-+	-+	-	-+
	30m	-	-+	-+	-	-+
	50m	-	-	-+	-	-+
	75m	-	-+	-	-+	+-
	豊後水道 中部	0m	-+	+-	+-	+-
10m		-+	-	-+	-	-+
20m		-	-	-+	-	-+
30m		-	-+	-+	-	-+
50m		-	-+	-	-	-+
75m		-	+	+	-	-+
豊後水道 南部		0m	-+	+-	+-	+-
	10m	-+	-+	+	-+	-
	20m	-	-	++	-+	-
	30m	-	-+	+	-+	-+
	50m	-	+	+-	-	-+
	75m	+-	+	+	-	-+

今後の海況の見通し<2020年1~6月>

■黒潮

都井岬では、概ね接岸傾向で推移するでしょう。

■沿岸水温

「平年並」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

・黒潮流路予測は令和元年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2019)を参考にしました。

・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられます。福岡管区气象台から令和元年11月25日に発表された「九州北部地方3ヶ月予報」では、以下のように予測していることから沿岸水温は高めで推移すると考えられます。

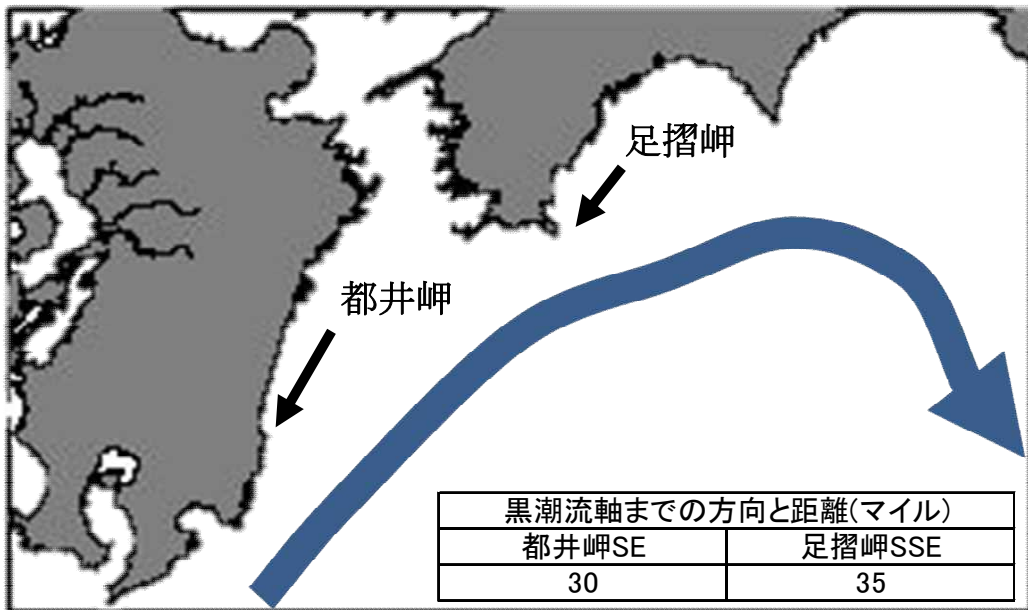
12月「低め 20 %、平年並 30 %、高め 50 %」

1月「低め 20 %、平年並 40 %、高め 40 %」

2月「低め 30 %、平年並 30 %、高め 40 %」

■黒潮現況

海上保安庁発行の海洋速報によると、現在黒潮は都井岬で接岸、足摺岬でやや離岸している模様です。(2020年1月20日発行第10号)



都井岬 離接岸階級	0~30	31~50	51~75	76~
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸
足摺岬 離接岸階級	0~25	26~45	46~65	66~
	接岸	やや離岸	かなり離岸	著しく離岸

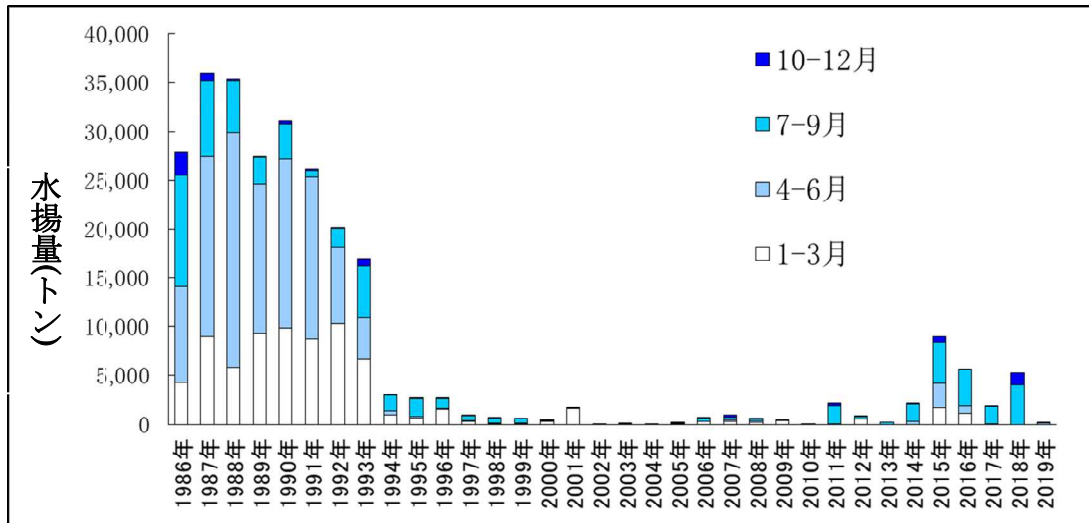
図3 海上保安庁観測による2020年1月20日現在の黒潮流路

■マイワシ

□2019年7～11月の漁況経過

2019年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの水揚量は28トンで、前年比0.5%、1986～2018年の平均値(以下「平年」という)の比が1%と、前年、平年を大きく下回りました。水揚の主体は、被鱗体長^(用語解説①)12.5～14.0cmの0歳魚(2019年生まれ)でした。

なお、近隣海域^(用語解説②)では宮崎県は前年の4%、愛媛県は前年の109%、高知県では前年の45%の水揚量となっています(2019年7～11月の水揚量合計値)。



※2019年は11月まで

図4 まき網によるマイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2020年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2019年1～6月:176トン)

水揚対象年齢及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1～2歳魚(2018～2019年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長7～12cm前後の0歳魚(2020年生まれ)が主体となるでしょう。

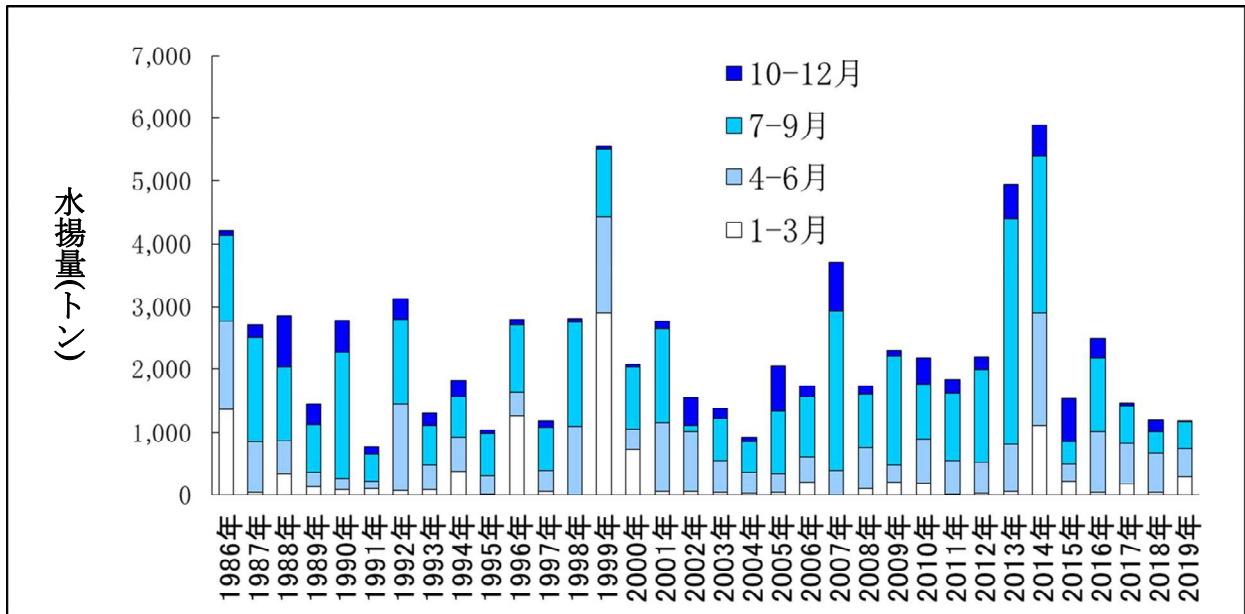
【説明】

1～3月に水揚の主体となる2019年級群(明け1歳魚)は、2019年級群が水揚の主体だった2019年7～11月のまき網水揚量が28トンで前年を下回ったことから、来遊水準は前年を下回ると考えられます。4月以降に水揚される2020年級群(0歳魚)の来遊水準について現段階では不明ですが、資源状態が良好なことや、前年同時期の水揚が176トンと低調であったことを考慮し、全体として予測は前年並～下回るとしました。

■カタクチイワシ(成魚)

□2019年7～11月の漁況経過

2019年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの水揚量は438トンで、前年比91%、平年比32%と、前年並で平年を下回る漁となりました。水揚の主体は、被鱗体長4.5～8.5cm前後の0歳魚(2019年生まれ)でした。なお、宮崎県では前年の144%、愛媛県では前年の89%、高知県では前年の25%の水揚量となっています。(2019年7～11月の水揚量合計値)。



※2019年は11月まで

図5 まき網によるカタクチイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2020年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2019年1～6月:734トン)

水揚対象年齢及び体長:

1～6月は1歳魚(2019年生まれ)が水揚の主体となるでしょう。

【説明】

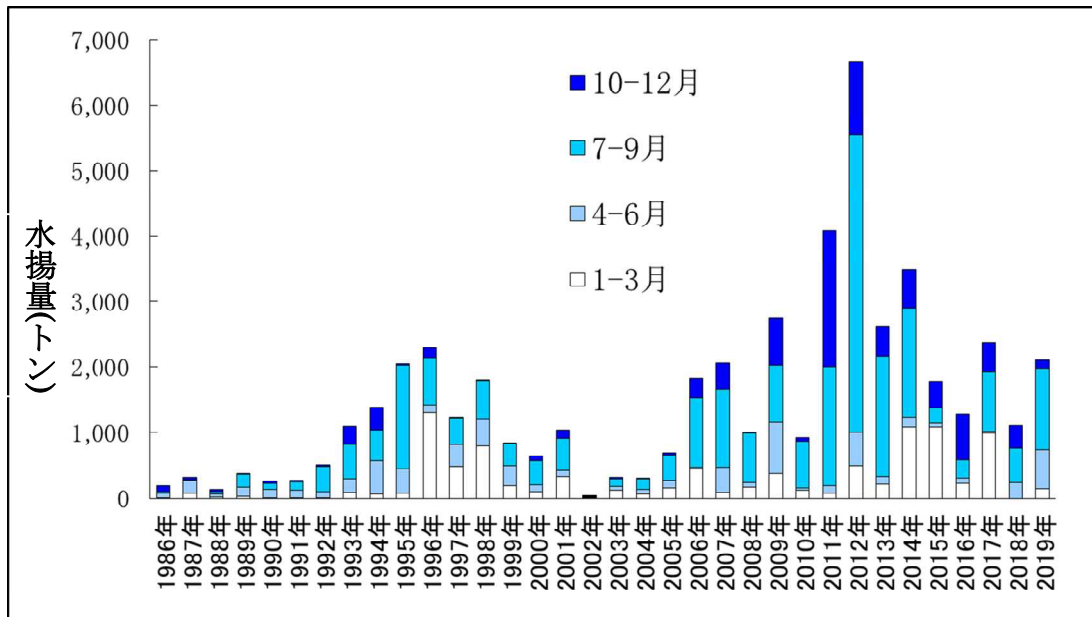
例年、1～6月は1歳魚が水揚の主体となります。0歳魚(2019年生まれ)が水揚の主体だった2019年7～11月の水揚量は438トンで前年並でした。しかし、期間後半にかけて水揚が減少し、11月の水揚がなかったことを考慮して、予測は前年並～下回るとしました。

■ウルメイワシ

□2019年7～11月の漁況経過

2019年7～11月における豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの水揚量は1,374トンで、前年比160%、平年比153%と、前年、平年を上回る漁となりました。水揚の主体は、被鱗体長6.5～10.5cm前後の0歳魚(2019年生まれ)と、17.5～20.5cm前後の1歳魚(2019年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の95%、愛媛県では前年の72%、高知県では前年の161%の水揚量となっています(2019年7～11月の水揚量合計値)。



※2019年は11月まで

図6 まき網によるウルメイワシの水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2020年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～上回るでしょう。(2019年1～6月:737トン)



水揚対象年齢及び体長:

1～3月は被鱗体長15～20cm前後の1歳魚(2019年生まれ)が主体となり、4～6月は被鱗体長10cm前後の0歳魚(2020年生まれ)が水揚の主体となるでしょう。

【説明】

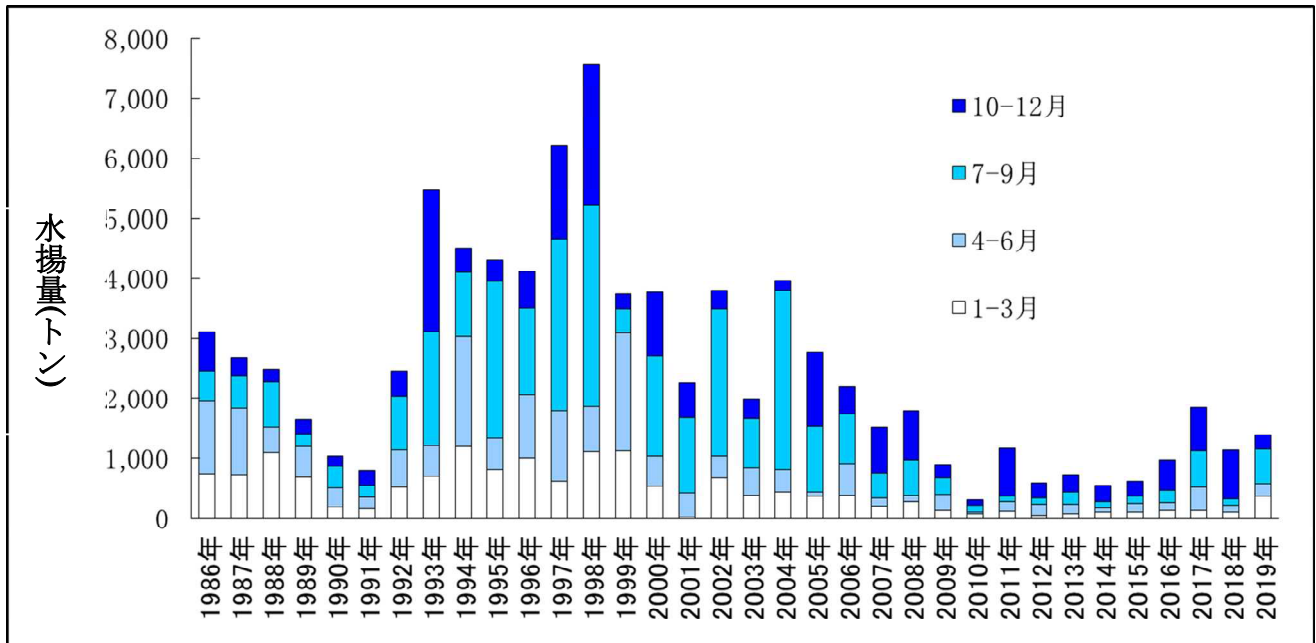
1～3月に水揚の主体となる2019年級群(明け1歳魚)は、2019年級群が水揚の主体だった2019年7～11月の水揚量が1,374トンで、前年を上回りました。しかし、前年1～6月の水揚が好調であり、これを上回るのは難しいと考えられることから、予測としては前年並～上回るとしました。

■マアジ

□2019 年 7～11 月の漁況経過

2019 年 7～11 月における豊後水道南部主要 3 港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの水揚量は 810 トンで、前年比 129%、平年比 55%と前年を上回り、平年を下回る漁となりました。水揚の主体は、尾叉長^(用語解説③)10.0～15.0 cm前後の 0 歳魚(2019 年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の 32%、愛媛県では前年の 90%、高知県では前年の 22%の水揚量となっています(2019 年 7～11 月の水揚量合計値)。



※2019年は11月まで

図 8 まき網によるマアジの水揚量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2020 年 1～6 月>

来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は前年並でしょう。(2019 年 1～6 月:578 トン)



水揚対象年齢及び体長:

近年の調査から尾叉長 14～19 cm前後の 1 歳魚(2019 年生まれ)が水揚の主体となると考えられます。

【説明】

例年、1～6 月は 1 歳魚が水揚の主体となります。前年は平年を下回ったものの、近年では比較的好漁でした。

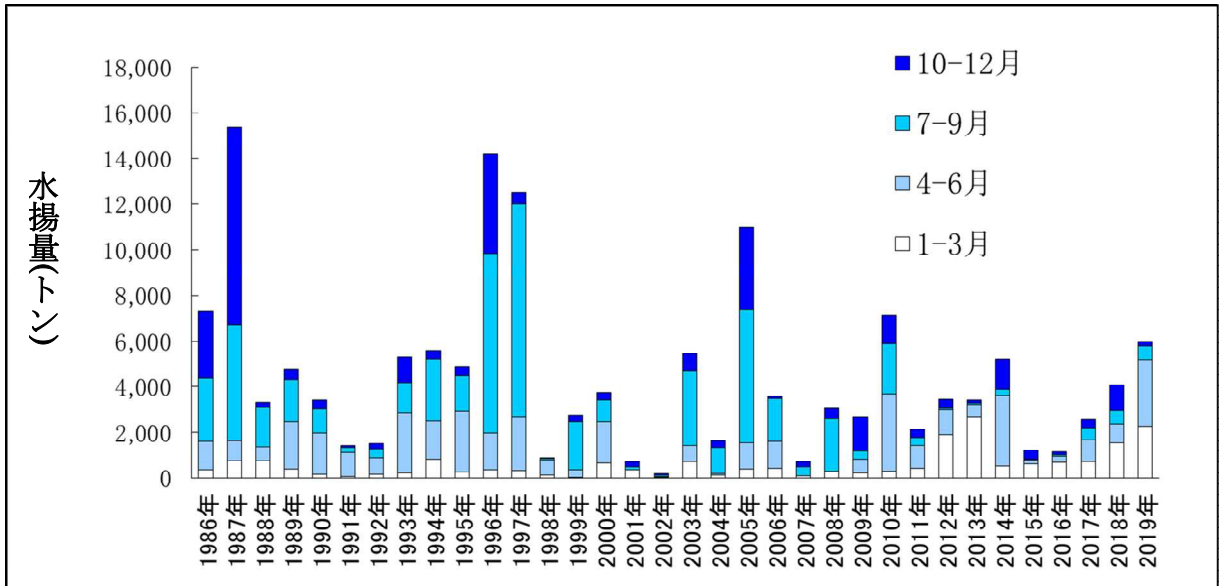
0 歳魚が水揚の主体であった 7～11 月の水揚量は前年を上回りましたが、一方で資源は低位であり 2019 年生まれのマアジは少ないと推測されています。以上のことから、来遊水準は前年並と予測しました。

■サバ類

□2019 年 7～11 月の漁況経過

2019 年 7～11 月における豊後水道南部主要 3 港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の水揚量は 819 トンで、前年比 50 %、平年比 31 %と前年、平年を下回る漁でした。期間中はマサバの割合が大きく、水揚の主体は、尾叉長 20.0 cm 前後の 0 歳魚(2019 年生まれ)と、尾叉長 25.0～26.5 cm 前後の 1 歳魚(2018 年生まれ)でした。

なお、宮崎県では前年の 30 %、愛媛県では前年の 31 %、高知県では前年の 30 %の水揚量となっています(2019 年 7～11 月の水揚量合計値)。



※2019年は11月まで

図9 まき網によるサバ類(マサバ・ゴマサバ)の水揚量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<2020 年 1～6 月>



来遊水準:

豊後水道南部への来遊量は、前年並～下回るでしょう。(2019 年 1～6 月:5,184 トン)

水揚対象年齢及び体長:

これまではゴマサバが主体でしたが、近年の調査結果によれば、1～3 月は尾叉長 30～35 cm 前後のマサバ 3 歳魚以上が主体となると考えられます。4 月以降はゴマサバも対象となるでしょう。

【説明】

海況条件にもよりますが、予測期間中は、30 cm 以上のマサバ 3 歳魚(2017 年生まれ)以上が水揚の主体となり、4 月以降はゴマサバも対象となると考えられます。2019 年 7～11 月は 0 歳魚(明け 1 歳魚)が水揚の主体であり、その水揚が 819 トンで前年を下回りましたが、マサバは資源状態が良好と考えられており来遊に期待が持てます。一方で、前年の水揚量は過去最高であり、これを上回ることは難しいと考えられるため、来遊水準は前年並～下回ると予測しました。

その他

■ 予測の根拠および参考資料

・令和元年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係都道府県:2019)

URL: <https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20191223/index.html>

■ 用語解説

- ①被鱗体長 : 体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。
- ②近隣海域 : ここでは、3県(宮崎県・愛媛県・高知県)の海域をさす。
- ③尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■ 問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究指導センター水産研究部 資源増殖チームまで。

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6
電話:0972-32-2155
FAX:0972-32-2156